

神戈陵を渡る風

令和3年度 川辺高校 校長通信 第047号

令和4年3月18日(金)発行

3月は陰暦の「弥生」とも言われます。語源は草木の芽吹く「いやおい」から「やよい」となった説が有力だそうです。「晩春」「花惜月」「雛月」といった別名・異称もあります。明治初頭、陽暦(新暦)を採用した日本では、各月を現在のような1月~12月で表すようになりました。これ以前の陰暦(旧暦)では、和風月名という季節感のわかる言葉で各月を表現していました。「弥生」は和風月名の3番目にあたる月です。陽暦採用前の日本では、陰暦(旧暦)が使われており、弥生は3月を意味していました。しかし陰暦の3月は、陽暦の3月と時期が違います。陽暦は陰暦から1か月ほど遅れ、陰暦の3月は、陽暦の3月下旬から5月上旬頃にあたるそうです。

日本の色 3月2

だんだんと春めいてくるこの時期の「にっぽんのいろ」散策第二弾。川辺高校の校内やその周辺で、自然を肌で感じてください。



蒲公英色(たんぽぽいろ)

春の代名詞とも言えるたんぽぽにちなんだ鮮やかな黄色です。比較的新しい色で、黄色系の色が少なかった伝統色に華やかな彩りが加わりました。

たんぽぽいろ
蒲公英色



花萌葱(はなもえぎ)

落ち着きと活気を併せ持つ強い緑色。なんだか自然の力を感じられる、素敵な色ですね。

はなもえぎ
花萌葱



千草色(ちぐさいろ)

少し緑がかった薄い青色です。田舎から商家へ奉公に出てきた方のお仕着せによく用いられる色でした。力強い野の草を思わせる、素敵な色です。

ちぐさいろ
千草色



校長散策 4

多賀山公園

鹿児島市の祇園之洲近くに、多賀山公園があります。この地は、中世の山城(やましろ)東福寺城跡です。鎌倉時代に源(みなとの)頼朝(よしもと)の命を受け、薩摩の地頭職にあった島津氏は当初出水に居を構えていましたが南北朝(1336～1392)の時代に現在の鹿児島市付近まで南下し、薩摩藩の基礎を作り上げ、大隅、日向と勢力を拡大(三州の守護となる)していったそうです。

この地には、東郷平八郎海軍元帥のお墓(頭髪が埋葬)と銅像が設置されています。東郷元帥は、日露戦争における日本海海戦で当時世界最強といわれたロシアバルチック艦隊に勝利した英雄であり、「ADMIRAL TOGO(東郷提督)」「東洋のネルソン」「沈黙の提督」などと称されています。世界中でその功績が讃えられている方です。



写真右下の銅像へ繋がる急な階段は軍艦の舷梯(ふなはしご)を模しているそうです。



銅像東郷元帥の視線の先には、錦江湾の入り口があり、見守って下さっているようです。今でも、外国の海軍が鹿児島に寄港した際は、艦長や将兵が墓参されるそうです。

南洲墓地

「命もいらす名もいらす」

1877年(明治10)9月24日、城山で西郷隆盛が自害して西南戦争が終わりました。この南洲墓地には西南戦争に敗れた薩軍2023名もの将兵が眠っています。墓地の中央には西郷隆盛の墓石を、右手に最後まで奮戦した桐野利秋(きのとしあき)、右手には篠原国幹(しのはらくにもと)、他には村田新八(むらたしんはち)、辺見十郎太(へんみじゅうろた)、別府晋介(べつぷしんすけ)、桂久武(かつらひさたけ)などの幹部が並んでいます。



— 真義を貢いた巨星と群れ星ここに眠る —
西南戦争はたいへん不幸な出来事であったと思います。維新後の大改革を急ぐあまり、政府の対応とついて行けない旧士族の不満が、あの大西郷を介しても避けられなかったばかりか、これからの新しい世界に必要な人の命がたくさん失われたことを残念に思います。



白梅と桜島